

# 次年度以降の推進委員会活動予定について

1

## 四日市コンビナートの将来ビジョンに向けた2030年の到達点

令和4年度策定の検討報告書における、グランドデザインについては、2030年の到達点も含め、今後の取組や各種技術開発などで随時更新を検討

### エネルギーの脱炭素化・低炭素化

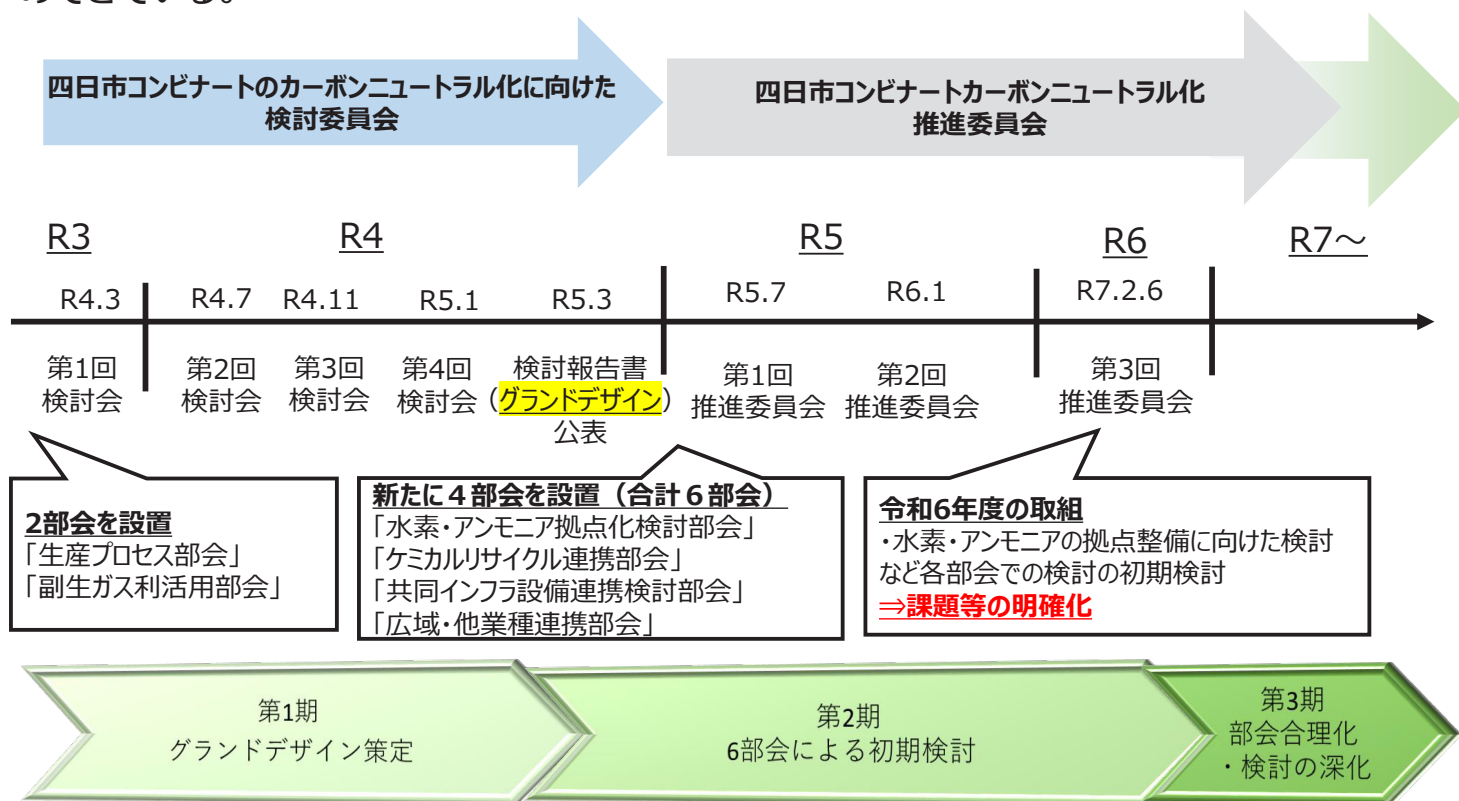
### 化学品製造プロセスの脱炭素化・低炭素化

### 産業集積地の基盤整備／産業誘致



## これまでの検討委員会・推進委員会の開催の経緯について

グランドデザインの策定、実現に向け、部会の設置・開催を行い、検討の深化等を進めてきている。



3

## 次年度以降の推進委員会活動予定について

次年度以降の各種取組は、以下の体制にて推進していく

### 次年度以降の目標

- ✓ カーボンニュートラルの実現に向け、各テーマ領域の検討の深化、FS・実証プロジェクトの推進
- ✓ 中部圏・四日市としてコンビナートのカーボンニュートラル化に向けた拠点化等にかかるインフラ整備などターゲットを整理し、政府支援等につなげる

取組推進のイメージ			
推進体制		実施内容(想定)	
推進委員会	部会	部会/CN推進委員会	
<b>委員</b> ➢ コンビナート企業 ➢ 行政(国・県・市・港) ➢ 学識経験者 <b>主な機能</b> ➢ 部会・個社の取組を総括し、ステークホルダー全体に共有 ➢ 有識者等からの助言を受入 ➢ グランドデザインの進捗を確認	<b>委員</b> ➢ コンビナート企業 ➢ 行政(国・県・市・港) <b>主な機能</b> ➢ 個別のテーマ領域の取組意向を持つ企業が参画 ➢ 連携可能性や課題の対応方針を協議するとともに、具体的な事業の推進を図る	<b>企業</b> 個別プロジェクト・企業間連携プロジェクトの推進 課題の抽出、対応内容の協議 <b>個社</b> 個社で、グランドデザインの実現に寄与する取組の推進	<b>行政</b> 部会を企画・運営、随時結果のとりまとめ 部会取組状況を整理し、新設・統合等の合理化を推進 推進委員会を年一回(年明け～年度末想定)以上実施し、必要に応じてロードマップやグランドデザインの検証や更新などを検討 外部の地域、協議会等との連携をサポート 部会や個社での取組に対する支援 コンビナート企業等へのヒアリング・取りまとめ

### 意見交換・連携



関係機関  
(国・各種協議会・中部圏内外の各企業)



有識者

4

## 既存部会の取組状況について

これまでの検討によって、取組における課題や部会横断で検討すべき事項等を特定・抽出した。今後は課題整理とともに部会の整理・合理化を進めながら、継続的に取組を推進し、検討を深化・具体化していくことが必要である

**推進方針** 各ステークホルダー間の横断テーマ・課題を中心に、事務局が検討推進や連携をリード

現部会	当初想定した活動内容	これまでの検討	今後に向けた課題
生産プロセス部会	・SAF製造の実証・事業化に向けた廃食油回収量調査、SC検討	・原料となる廃食油の賦存量試算	・現状、SAFの国内（特に中部圏）需要が限定的 ・原料調達・確保
副生ガス利活用検討部会	・エチレンプラント副生ガス有効利用に向けた需要・供給量調査、設備投資規模・スケジュール・中部圏での連携方向性協議	・副生ガスの組成・流量を部会内で共有 ・需要や課題を整理	・需給マッチングの精度向上 ・水素等利活用との連動 ・環境価値配分方法の整理
水素・アンモニア拠点化検討部会	・水素・アンモニア需要・供給量の詳細調査 ・中部圏との連携方向性協議	・背後圏を含む需要量（推察含む）の調査 ・拠点整備に関するFS実施	・運営体制構築 ・工期長期化、コストアップ等への対応検討
ケミカルリサイクル連携部会	・企業と行政が連携した有価物の分別・回収スキームの構築	・事業が具体化している品目の回収実証実験等を実施 ・行政の資源循環施策の情報収集・意見交換	・事業が具体化していない品目を含む、企業と行政の連携検討
共同インフラ設備連携検討部会	・電力や蒸気の供給に係る共同設備設置に向けた検討 ・CO2回収に係る設備やその投資規模の調査	・他地域事例収集 ・課題認識の共有 ・CO2回収需要量調査	・インフラ整備に関連した水素・アンモニア等との共通検討事項の整理
広域・他業種連携部会	・企業連携による新規プロジェクトの可能性探索 ・半導体関連、自動車関連、CCS関連企業等との意見交換	・エンジ会社等から連携事例を紹介 ・他部会で広域・他業種と連携した検討を実施	・各部会において、広域・他業種と連携しながら検討を進めていることから実施内容について要整理

5

## 令和7年度の部会（進め方）について

これまでの既存部会での検討状況や取り巻く環境などを踏まえ、部会を再構築し、カーボンニュートラルと産業競争力の両立（GX）をめざした取組を加速

合理化イメージ

部会名（仮）	低炭素・省エネ部会（仮）	GX戦略部会（仮）	拠点化検討部会（仮）
将来めざす姿（例）	●低炭素・省エネの取組を強化することで、段階的な脱炭素化を実現	●ケミカルリサイクルなどによる原燃料の転換を図り、環境負荷が低減された製品を製造 ●CCUなど炭素循環を図ることによる製品価値の向上	●カーボンニュートラル化に向けた水素・アンモニアの拠点形成 ●CCSや副生ガスの利活用などを含めた総合的なCO <sub>2</sub> 削減
検討内容（案）	●デジタルを活用した省エネやバイオマスの利活用など、足元の低炭素化の検討 ●モビリティの低炭素化に向けて実証等の取組を推進	●原燃料の転換・循環に向けて、各社の戦略を踏まえた企業間連携を含めたコンビナート全体の具体的なGX戦略を検討 ●技術動向の整理、共同実証のテーマなどの検討	●FS結果等を踏まえた水素・アンモニアへの段階的な転換検討 ●CCSの導入に向けたインフラ整備検討や副生ガスの利活用検討
ターゲット時期	短期（～2030年）	中長期（2030年以降）	

今後の進め方

- 部会の検討内容の整理など新部会のイメージをR7.4目途に固め、新部会への参加意向上を確認
- 具体的な取組内容について、新技術、時間、エリアなどの視点を踏まえ、各部会で設定し、継続開催
- 適宜、部会内に個別WGを設け、関係企業を絞り検討等を深化